

|      |              |      |
|------|--------------|------|
| 方面   | 第81回定期演奏会    | (1面) |
| 1師団  | 化学剤対処に係る協同訓練 | (3面) |
| 12旅団 | 第1次旅団訓練検閲    | (4面) |
| 1施設団 | 第1施設団創隊記念行事  | (5面) |
| 関東補処 | 中曹履修前教育      | (5面) |



令和6年7月25日 第1074号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」  
総監要望事項「万事作戦を基準」

陸上自衛隊東部方面隊広報紙

発行所：方面総監部広報室  
住所：東京都練馬区大泉学園町  
専用線：8-37-2446



小沼3曹の歌とともに会場全員で大合唱

# 会場全員の笑顔と大合唱

## 第81回定期演奏会

東部方面音楽隊は6月15日、和光市民文化センターにおいて、陸上自衛隊

東部方面隊に対する親近感を醸成することを目的として第81回定期演奏会を実施した。

本演奏会は和光市文化

振興公社の共催により毎年実施しているもので、当日は一般公募者のほか、地元和光市内の中学・高校の吹奏楽部に所属する学生や、招待者等1000人以上の観客が詰めかけた。

会場ロビーにはパリオリンピックに内定した、自衛隊体育学校の選手のコメント動画や和光市出身の東京オリンピック自転車トラックレース銅メダリストの梶原悠未選手の応援メッセージ動画も設けられ、盛り上がりを見せていた。

演奏会は国歌「君が代」の厳粛な演奏から幕開けし、第1部は今年度全日本吹奏楽コンクール課題曲「メルヘン」やジョージ・ガーシュインの「パリのアメリカ人を演奏

また日本を代表する作曲家 家星出尚志(ほしでたかし)氏の信号らっぱをフューチャーした東部方面音楽隊委嘱作品「号音吹鳴(ごうおんすいめい)」が初演され、長谷川2曹の軽快かつ堂々とした信号らっぱの演奏と会場で紹介を受けた星出氏に観客からは惜しみない大きな拍手が送られた。

第2部ではオリンピッククイヤーにちなみ、ロサンゼルスオリンピックファッショナブルを皮切りに開催国フランスの作曲家ミッシェル・ルクランのメドレー「M・ルクランの世界」やモリス・ラヴェルの代表作品を「風変わったポップスアレンジ」にした「ボレロ」を演奏。中盤では過去のオリンピックで多くの日本人選手活躍とともに感動を与えた応援ソング2曲から観客の拍手によって選ばれた2012年ロンドンオリンピックNHK公式応援ソングいきものがかりの「風が吹いている」を披露した。

終盤は再びフランスに戻り、芸術の都パリの香りが匂い立つ「シャンソンメドレー」、最後に美しいシャンゼリゼ通りを描いた「オーシャンセリゼ」を小沼3曹の歌とともに、会場全員の笑顔と大合唱で大いに盛り上がりを見せた。

本演奏会にはパリオリンピックに内定した、自衛隊体育学校の選手のコメント動画や和光市出身の東京オリンピック自転車トラックレース銅メダリストの梶原悠未選手の応援メッセージ動画も設けられ、盛り上がりを見せていた。

演奏会は国歌「君が代」の厳粛な演奏から幕開けし、第1部は今年度全日本吹奏楽コンクール課題曲「メルヘン」やジョージ・ガーシュインの「パリのアメリカ人を演奏

また日本を代表する作曲家 家星出尚志(ほしでたかし)氏の信号らっぱをフューチャーした東部方面音楽隊委嘱作品「号音吹鳴(ごうおんすいめい)」が初演され、長谷川2曹の軽快かつ堂々とした信号らっぱの演奏と会場で紹介を受けた星出氏に観客からは惜しみない大きな拍手が送られた。

第2部ではオリンピッククイヤーにちなみ、ロサンゼルスオリンピックファッショナブルを皮切りに開催国フランスの作曲家ミッシェル・ルクランのメドレー「M・ルクランの世界」やモリス・ラヴェルの代表作品を「風変わったポップスアレンジ」にした「ボレロ」を演奏。中盤では過去のオリンピックで多くの日本人選手活躍とともに感動を与えた応援ソング2曲から観客の拍手によって選ばれた2012年ロンドンオリンピックNHK公式応援ソングいきものがかりの「風が吹いている」を披露した。

終盤は再びフランスに戻り、芸術の都パリの香りが匂い立つ「シャンソンメドレー」、最後に美しいシャンゼリゼ通りを描いた「オーシャンセリゼ」を小沼3曹の歌とともに、会場全員の笑顔と大合唱で大いに盛り上がりを見せた。

アンコール曲は2003年東部方面音楽隊委嘱作品の行進曲「イースト・ウインド」を演奏し、観客からの大きな拍手に送られ本演奏会を締めくくった。



軽快かつ堂々たらっぱを吹奏した長谷川2曹



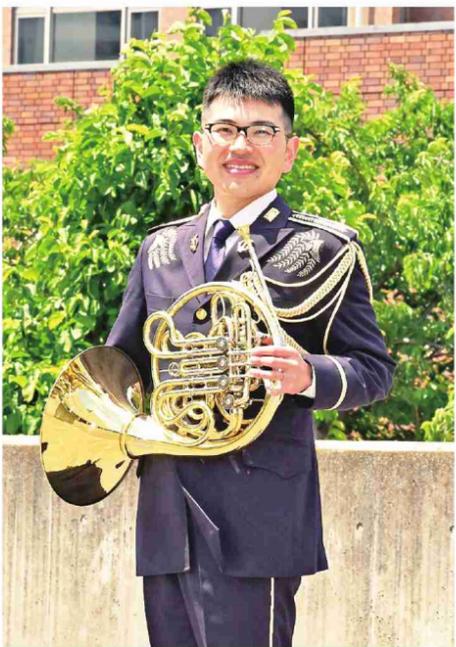
受付(手荷物検査)の様子



体育学校が作成した映像を楽しむ来場者

### 訓練所感

東部方面音楽隊  
3等陸曹 作田 進悟



### 第81回定期演奏会を終えて

私は令和6年3月に北部方面音楽隊から転属して東部方面音楽隊で初めての定期演奏会に参加しました。本演奏会は地域住民に対し、東部方面隊への親近感の醸成を図るとともに音楽隊の技能向上と成果発表の場として行われており、アンコール演奏が終わっても鳴りやまない拍手とお客様の満面の笑みを一身に受け定期演奏会は大成功を収めることができました。

今回の定期演奏会は2週間の訓練期間が設定され、隊員一同ひとつの演奏会を成功させるべく一人一人が音楽に真剣に向き合い、日々研鑽を重ねました。音楽隊は吹奏楽という金管楽器、木管楽器、打楽器、そして指揮者からなる演奏形態で日々演奏活動を行います。私は、金管楽器のホルンを演奏しているのですが、これは吹奏楽で大変重要な役割を担います。ホルンは輝かしい音も優しく柔らかい音も演奏することができるので、金管楽器でありながら時に木管楽器と同じように柔らかい旋律を演奏したり、または金管楽器と木管楽器の接合剤のように音を融和する役割も果たします。

今回の定期演奏会もホルンが大変活躍するシーンが多く、合奏訓練を通じてより良い演奏を試し、試行錯誤を重ねました。ホルンセクションでしっかりと議論を重ね、日々の合奏訓練に臨み無事本番を成功させることができました。演奏会を終えて東部方面音楽隊は隊長、音楽班長の明確かつ的確な指揮に隊員全員がそれぞれの役割を認識し、演奏会を成功させるという目標に対し努力を研鑽を惜しまない部隊であると感じました。この刺激的な環境に感謝し、引き続き部隊に貢献できるように精進していきます。

観客からは「感動して泣きました」「盛りだくさんで楽しかった」との感想があり盛會裏に終了しました。

また一般公募応募者のうち当選した10人が広報センターで実施した、戦車体験搭乗イベントに参加し、演奏と体験搭乗の両方を楽しんだ。参加者は「戦車はとても迫力があった、速度も速くてビックリした」と感想を話していた。

# 希望を胸に 大きく羽ばたけ新隊員



区隊旗の返納(第34普通科連隊)



連隊歌の斉唱(第13普通科連隊)



優秀隊員の表彰(東部方面特科連隊)



笑顔で集合写真(第117教育大隊)



班長と記念撮影(女性自衛官教育隊)

6月下旬、方面区内の各駐屯地において、一般隊員候補生課程及び自衛官候補生課程の修了式が行われた。新隊員はこれまでの約3カ月間の教育により、自衛官として必要な知識・

技能及び体力・氣力を身につけるとともに、団体生活の中で規律心のほか、責任感や団結心を養い、一人前の自衛官としての成長を重ねてきた。修了式では共に歩んだ仲間との別れを惜しむつ

つ、入隊時とは見違えるような凛々しい姿となり、7月1日付で全国の特技教育担任部隊へ異動した。次の教育では、各職種の専門的な知識や技能を身につけ、その後に各部隊に配属され、第一線で活躍することとなる。新隊員はそれぞれの思いと希望を胸に新たな一歩を踏み出していく。

方面隊は6月17日から21日までの間、朝霞駐屯地において駐(分)屯地カウンセラー指定予定者に対して、カウンセリング技法及びストレス対処法を実施させ精神的不調(実習)、カウンセリング隊員への初期の対応能力を付与させることを目的として、令和6年度駐屯



骨盤固定の処置要領



在日米陸軍医療局による研修

また方面医務官及び師(旅)団の衛生隊長等と意見交換を実施して、各部隊の教訓事項等の共有

により、今後の訓練の資を得るとともに、衛生支援の実効性を向上させた。さらに本訓練において在日米陸軍医療局6人が研修を行い、在日米陸軍との連携を通じた運用の

実効性及び職種等間の相互運用性の向上を図ることができた。衛生隊は引き続き、方面隊所属衛生科隊員の技術練度の底上げ及び練度向上に寄与していく。

## 駐屯地カウンセラー養成訓練 カウンセリングの能力向上

地カウンセラー指定予定者に対して、カウンセリング技法及びストレス対処法を実施させ精神的不調(実習)、カウンセリング隊員への初期の対応能力を付与させることを目的として、令和6年度駐屯

地において駐(分)屯地カウンセラー指定予定者に対して、カウンセリング技法及びストレス対処法を実施させ精神的不調(実習)、カウンセリング隊員への初期の対応能力を付与させることを目的として、令和6年度駐屯

## 衛生科職種合同訓練を実施 在日米陸軍の研修も

東部方面衛生隊は6月11日から13日までの間、朝霞駐屯地において職種部隊として必要な練度維持・向上を図ることを目的として、方面隊隷下職種部隊間の横断的な練成訓練となる令和6年度第1回衛生科職種合同訓練を実施した。本訓練には方面隊隷下部隊等が参加し、第一線救護、後送間救護及び收容所治療の訓練を行った。第一線救護では接合部出血、開放性気胸及び骨盤固定の処置を模擬血液を使用して、緊張感をもって、実施するとともに、收容所治療では訓練のリアリティを向上させるため、ハイブリッドシミュレータ(豚の臓器を使用した戦傷治療模型)を活用し、より実践的な訓練環境を作為して收容所業務についての訓練を実施した。

## オピニオンリーダー等 方面区内研修 三宿駐屯地3個部隊等を研修



第一線救護訓練の研修(衛生学校)



病棟の研修(中央病院)



概要説明(対特殊武器衛生隊)

方面隊は6月21日、オピニオンリーダー等に対し、方面区内(三宿駐屯地)研修を実施した。研修にはオピニオン

方面隊は6月21日、オピニオンリーダー等19人が参加し、衛生学校、自衛隊中央病院及び対特殊武器衛生隊の訓練を、中央病院では第一類感染症(エボラ出血熱、ペスト等)に対応可能な病棟の研修を、対特殊武器衛生隊では装備品展示等を研修した。研修参加者からは「衛生科部隊の重要性を再認識することができた」と感じたと感じた」等の感想を聞くことができた。

衛生学校では実際の現場を想定した第一線救護の訓練を、中央病院では第一類感染症(エボラ出血熱、ペスト等)に対応可能な病棟の研修を、対特殊武器衛生隊では装備品展示等を研修した。研修参加者からは「衛生科部隊の重要性を再認識することができた」と感じたと感じた」等の感想を聞くことができた。

方面隊は本研修を通じて、オピニオンリーダー等に衛生分野の活動や三宿駐屯地部隊等の任務の重要性を認識して頂くことができた。今後も方面隊は各種行事・研修にオピニオンリーダーを招待し、各々の地域における防衛意識普及等のための情報発信に寄与していく。



部外講師による教育

訓練に参加した隊員は「駐屯地カウンセラーに必要な基礎的な能力を修得することができた」「教育を受けて、服務指導等で感じていた長年の疑問を解決することができた」「実習を通じてさまざまな技法を体得することができた。傾聴から一歩進んだ技術を学べ、部隊相談員との違いも理解でき、勉強になった」と話した。

第1師団

# 真に戦える部隊の創造

## 協同訓練

### 都営地下鉄でサリン対処訓練 首都防衛のより強固な抑止力を構築

師団は6月9日、都営大江戸線都庁前駅において第1特殊武器防護隊を主力として第1普通科連隊、第1後方支援連隊、第126地区警務隊及び東京消防庁をはじめとする関係各機関と連携し、化学剤対処に係る協同訓練を実施した。



関係機関と連携して化学剤の検知、除染要領について確認



関係機関と連携してより高度な救命処置を実施



映像により情報を収集、関係機関と共有・連携

本訓練はより実際の事態対処任務遂行能力の向上を図るため、師団長要望事項の一つ「創造的破壊への挑戦」に基づき、訓練場所を自衛隊の訓練施設ではなく、現実の公施設等を用いて行うとともに、東京消防庁等関係各機関の参加協力を得て実施し、首都機能維持

に寄与し得る真に戦える部隊の創造に努めた。訓練は首都機能を維持するために必要不可欠な地下鉄各線において、不審な液体が入った瓶が残置される事象が同時複数箇所を確認され、多数の乗客に痙攣等の症状が発生し、電車が各駅において緊急停車中であるとの

想定の下に行われた。1特防は駅構内の施設構造に応じた化学剤汚染地域の偵察、検知・検査及び除染を126警及び関係機関と協同・連携して行い、同時に傷病者の救出・搬送について1普通連、1後支及び関係機関が協同して行った。

参加した隊員からは「実際の駅構内で実際の関係機関と訓練したので、本当に起きているのではないかと錯覚してしまうほどだった。そのため緊張のあまり勇みすぎてしまうところがあった。こういう時にこそ平常心で臨むことが大切だと痛感させられた」と訓練環境及び状況がいかにリアルであったかを示す声が多く聞かれた。

師団は本訓練を通じて地下鉄における対処要領のイメージの具体化及び関係部隊及び関係機関との連携要領の深化を図ることができた。師団は今後も公安関係各機関と連携を強化するとともに、より強固な抑止力を構築し、首都機能の維持に貢献し得るよう協同訓練を継続的に実施していく。



## 06JXR 交通網まひを想定し都心を徒步行進 首都機能維持のため最善を尽くす

師団は5月20日から23日までの間、06JXR（令和6年度自衛隊統合防災演習）に参加した。地震発生以降4夜5日の一連の状況下の指揮所演習において、日本海溝・千島海溝型地震対処計画の検証を行うとともに、大規模震災対処等における指揮幕僚活動について演習した。併せて師団隷下各部隊は、部隊の即応態勢確立のために各種即応態勢訓練を行い、師団の災害対処能力向上を図った。特に1普通連は災害発生時に車両で前進が困難な状況を想定し、都内各区役所に迅速に連絡員を派遣することを目的に、実動により練馬駐屯地から都内各区役所に連絡員を徒歩により派遣した。参加した隊員は「行進中に区民の方から応援の声をかけてもらい、本当に災害が発生した時はその期待に応えられるよう不断の努力を続けていきたい」と話していた。師団は指揮幕僚活動の演習、実動による即応態勢訓練により、災害対処能力の維持・向上並びに災害対処計画の実効性向上を図り、大規模震災においても首都機能の維持に貢献し得るよう最善の限りを尽くしていく。

## 自衛隊への理解促進を図る 師団巡回演奏会in富士吉田



軽快な楽曲で会場を盛り上げる1音

師団は6月1日にふじさんホール（山梨県富士吉田市）において、師団巡回演奏会in富士吉田を実施した。約700人の来場者は第1音楽隊と北富士天王太鼓による演奏を楽しんだ。

活動紹介ブースを設置し、会場の外では軽装甲機動車及び偵察用オートバイを展示して、自衛隊に対する親近感の醸成を図った。多くの来場者から「迫力ある音楽隊と太鼓の演奏に感動しました」との声が聞かれた。

## 頭号師団の誉 師団ナンバーワン戦士

師団ナンバーワン戦士は平成30年度より、戦闘戦技に対する練成意欲の向上及び士気の高揚を図ることを目的に、各戦闘戦技ごとにナンバーワン戦士を各々認定し、認定証を授与している。今年で5回目となる師団ナンバーワン戦士に



桜の下での認定式

- ▼小銃射撃検定 (基本射撃の部)
  - 1 偵戦大 佐藤士長
  - 2 偵戦大 熊倉3曹
- ▼拳銃射撃検定 (応用射撃の部)
  - 1 偵戦大 熊倉3曹
  - 2 偵戦大 熊倉3曹
- ▼小銃射撃検定 (女性幹部の部)
  - 1 偵戦大 熊倉3曹
  - 2 偵戦大 熊倉3曹



### ナンバーワン戦士の声

体力検定（女性陸士の部）で認定された井上士長（写真右）は「この様に多くの訓練に参加させて頂きました。今回の認定で感謝の気持ちを形にできたと思います。今後は学んだ技術を継承し、記録を塗り替える射撃手の育成に努めます」と部隊への感謝の思いを話した。



ます。これに甘んじることなく、今後もより向上していきたいよう精進致します」と認定の喜びと今後の抱負を話した。

### 第12旅団

# 第1次旅団訓練検閲 及び空中機動訓練

## 3個部隊の訓練練度を評価

旅団は6月5日から10日までの間、相馬原演習場、関山演習場及び王城寺原演習場において、第13普通科連隊、第12ヘリコプター隊及び第12旅団司令部付隊の3個部隊を、受閲部隊として、令和6年度第1次旅団訓練検閲と本年度1回目となる空中機動訓練を行った。本訓練検閲は「攻撃に

おける各種部隊の行動」について検閲するものであり、訓練検閲の実施にあたり、訓練検閲の実施に要する旅団長は「指揮の要訣の実践（各級指揮官の状況判断）」「戦闘力の組織化」を要望事項として掲げた。13普通科連隊は松本駐屯地で隊容検査後、空中機動及び車両機動で関山演習場へ前進し、主攻撃に任ずる普通科連隊として行動するとともに、他正面に対する増援のため一部の部隊を王城寺原演習場に空中機動させ、重要防護施設を防護した。また12ヘリ隊は、相馬原演習場で隊容検査後、同演習場に展開し、空中機動に係る行動を演練して傷病者発生時の患者空輸や敵増援対処のための地雷散布を行うなど、各部隊の空中機動作戦における戦闘支援を実施した。併せて旅団司令部付隊は、相馬原演習場において隊容検査後、関山演習場へ空中機動させたモバイルCP（指揮所）を開設するとともに、車両機動により主力を前進させ、演習旅団司令部の活動を支えた。また総監による現地指導受け時には警備任務を完了した。その他、共通項目として、国民保護、被拘束者

の取扱い、UAV・ドローン対処の他、サイバー攻撃・電子戦対処など、新領域を含む実践的な環境下で実施した。空中機動訓練は高官、モバイルCP、緊急患者補給品などの空輸や、長距離空中機動を含む部隊の空輸等作為された様々な状況に即応すべく実機を用いて実施し、ヘリ隊と各部隊の連携要領等運用の実効性向上を図ることができた。

## 行動訓練を開始 旅団レンジャー集合教育

旅団は4月29日から高田駐屯地、関山演習場及び同周辺地域において第2普通科連隊長を担任官として、令和6年度旅団レンジャー集合教育（養成訓練）を実施中である。（7月1日現在）



重量物を携行して山地機動する学生  
し、6月14日からレンジャー学生20名は行動訓練を開始した。各種の厳しい訓練を乗り越え、研ぎ澄まされた表情の学生らは、新潟県上越地区の蒸し暑い山中を中心に、睡眠・食事が制限される極限状態の中、同期と力を合わせて各想定訓練において、与えられた任務の完遂に向けてまい進中である。



関山演習場から王城寺原演習場への空中機動準備



患者空輸を行う12ヘリ隊



モバイルCP（指揮所）を開設する旅団司令部付隊



水路潜入を行うレンジャー学生（上越市）



攻撃前進をする13普連の小銃班



12ヘリ隊による地雷散布



## ランチタイムに憩いの音色 木曜コンサートin新宿

このコンサートは新宿新都心開発協議会が主催し、5月から10月までの間、週替わりで自衛隊音楽隊や在日米軍音楽隊が演奏を行っており、12音は昨年にも引き続き今年も演奏を実施、憩いの音色を提供した。多くの観衆が訪れ「ジャンボリズムキーン」（上写真）演奏時は、ステージ前で隊員と共に一般のお客さんも飛び入りで参加して、華麗なダンスを披露、会場は多岐に盛り上がった。

第12音楽隊は5月30日、新宿三井ビル前の55ランチャタイムに7曲の演

## 自候生ラストスパート

第2普通科連隊（高田駐屯地）、第13普通科連隊（松本駐屯地）、第30普通科連隊（新発田駐屯地）、第12後方支援隊（新町駐屯地）の各部隊は、自衛官候補生課程教育を担任し、3月末に入隊した自候生らは6月下旬、それぞれの駐屯地で教育を修了した。入隊時は不安の表情だった彼らも、教育終了盤には自信に満ちた表情となり教育を駆け抜けていった。（関連記事2面）



気合いの駆け足行進（新発田）



体力検定 気合の「あと1回」（松本）



統制された基本教練（新町）



最終練度点検を受ける自候生（高田）

第1施設団

古河駐屯地創設70周年 第1施設団創設63周年 記念行事

施設団は6月2日、古河駐屯地創設70周年・第1施設団創設63周年記念行事を挙行政した。昭和29年2月の駐屯地創設から70周年を数える大きな節目に当たる本年は、駐屯地司令要望事項『地域とともに』を具現化すべく、年度当初から駐屯地一丸となり諸準備を進め、地域の皆様に対する70年分の感謝を込めた近年まれにみる盛大な記念行事となった。

式典において団長は「古河駐屯地は、昭和29年の発足以来、地域の皆様方に支えていただきながら70年の歴史を歩んできた。これからの5年後、10年後の未来のため、駐屯地隊員一同『ブロンチーム』の精神で責任を果たしていこう」と(要約)と祝辞を述べた。

式典に続き実施された隊区内の市町旗紹介では、平素からの連携をアピールすべく関係自治体の「ゆるキャラ」も合わせて紹介した。観閲行進は施設団隷下部隊の他に、古河駐屯地では普段見ることができない16式機動戦闘車をはじめとする車両が参加。観閲飛行

では航空自衛隊の救難ヘリも飛来し、行事に華を添えた。また防衛大学校儀仗隊によるファンシードリルや、高等工科学校和太鼓部による演奏(桜花太鼓)が披露されると、会場内からは大きな拍手と歓声が沸き起こった。訓練展示では駐屯地内

での出動準備から現場における活動までの一連の行動を、臨場感溢れる状況で展示した。このほか、92式浮橋によるミニ体験航海を含めた体験搭乗や、野外展示ブースにおいては、野外入浴セットによる足湯コーナー、野外手術シ



観閲官に対する栄誉礼



空自中部航空施設隊による車両行進



参列部隊による観閲行進



訓練展示 16式機動戦闘車の射撃



92式浮橋のミニ体験航海



高等工科学校の和太鼓演奏(桜花太鼓)



近隣高校生との合同演奏会

フォロー募集中 (Logo with QR code and text)

方協力本部の協力を得て、施設学校音楽隊と古河市内の高校生との合同演奏会を実施した。記念行事は午後から大雨となり、予定していたイベントの一部を規模縮小することになったが、約3200人が来場し、盛況に行事を終了した。今行事に際し、第1師団や第12旅団をはじめ、方



ゆるキャラ紹介写真左…上総市写真右…古河市

面特科連隊、方面航空隊、方面後方支援隊、方面衛生隊、中央即応連隊、施設学校、航空自衛隊中部航空施設隊の支援を受けた。

関東補給処

中曹履修前教育 共通的識能を充実

関東補給処は5月27日から6月7日までの間、霞ヶ浦駐屯地において各部、吉井弾薬支処及び航空学校霞ヶ浦校から集まった第22期及び第23期陸曹中級課程に入校予定の8人に対し、履修前教育を実施した。本教育は戦術、職務及び任務分析、訓練管理、安全管理、野外勤務、防衛法制などを履修させ、中級陸曹としての資質及び課程履修に必要な共通的識能を充実させ修学意欲の向上に資するために



警戒しながら前進する前衛分隊



最先任上級曹長による教育

してより具体的な分析を行っていた。教育の終盤に行われた野外勤務では、戦闘指導や戦闘予行を行った後、駐屯地内にある野外訓練場において実員指揮により前衛分隊の行動を履修した。本教育に参加した航空学校霞ヶ浦校の近藤2曹は「特に戦術が難しかった。戦術以外でも全体的に難しいことが多かった。今回の教育は本当にためになった。陸曹中級課程に行っても、今回の教育で学んだことを生かして頑張りたい」と意気込みを語った。

QR code and social media information for the unit.

富士総合火力演習を支援

演習の成功に寄与

関東補給処は5月26日に東富士演習場で行われた令和6年度富士総合火力演習を支援した。本支援は5月7日から26日までの間行われ、東富士演習場、富士駐屯地及び各部・各支処等において、野整備部隊等と緊密に連携した補給整備支援を実施し、装備品の不可動を防止することで、総合火力演習の成功に寄与することができた。



10式戦車のエンジンの積載



弾薬を準備する富士弾薬出張所

民間力活用の検証始まる 来年度以降試行へ (松戸支)
松戸支は、本年度から民間力の本格的導入に向けた検証を始めている。本年度は支処における補給業務(出納保管業務及び回収業務)について被服・糧食保管班、器材保管班及び回収分類班が会議や業務を通じて実施要領を検証しており、来年度以降の試行・導入の可能性を検討していくことになる。(写真)集荷作業での点検

航空隊

# OH-6Dの整備展示 防災イベントを支援



OH-6Dを積載する様子の展示



航空野整備隊による整備展示

航空隊は6月8日、東京都昭島市にあるモリパーアウトドアウィレッジにおいて東京地本の企画

が見守る中、航空野整備隊がフレードの脱着などの整備展示を行うとともに、撤収時にはクレーンでOH-6Dを車両に積載する様子も展示した。

来場者は記念撮影を楽しんでいた。支援に参加した航空野整備隊の松本一士は「今回、2回目の部外広報支援に参加させていただき、1回目より多くの方々とふれあうことができ、とても良い経験になりました。私自身、自衛官としての経験が浅いので、経験を積み重ね、より多くの方々に自衛隊

の魅力を伝えられるよう頑張りたいと思います」と感想を述べた。来場者が普段あまり見ることのない装備品を見て触れて体験してもらうことにより、来場者の防災意識の向上に資することができた。今後も地域住民に安心して暮らしていただくため東京地本と連携してイベントを支援していく。

## シ通群

# 第1次群集中訓練 隊員の基礎動作を徹底

東部方面システム通信群は6月13日から19日までの間、東富士演習場等において第1次群集中訓練を実施した。

隊員は集結地において進入態勢を整えることも

隊の基本的行動及び隊員の基礎動作の練度向上を図るとともに、東部方面特科連隊との共同訓練の場を活用し、通信支援班の検閲を実施した。今回初となる方面特科連隊と

の共同訓練においては、7月上旬に実施予定の実射検閲における通信確保の資を得ることができた。また群隊列を想定した野外炊事所を開設して野外炊事を実施することも、各施設の運営間、遊撃対処、航空攻撃、特殊武器攻撃への対応行動を実施し、隊員の基礎動作の徹底を図り、能力の向上を図ることができた。

本訓練を終えて、基礎となる部隊が高い練度を保持していることを確認した。東シ通群は今年度下半期に予定されている方面隊訓練検閲に向けて、さらに練度を重ね、一致団結して強靱な東部方面システム通信群を創造すべくまい進していく。



偽装網の展張



野外炊事所における炊事訓練

## 衛生隊

# 中央予備自訓練で 航空機患者搭載訓練を支援



患者搭載要領を演練する予備自衛官

東部方面衛生隊は5月20日から25日までの間、令和6年度中央予備自衛

官招集訓練に伴い、航空機患者搭載訓練を支援した。

本訓練では実際の航空機を用いて後送器材の取扱要領及びストレッチャーを用いた患者搭載要領を演練した。

航空機（CH-47）専用の航空機患者搭載用器材である。医療機器を取り付けることで全身状態（脈拍・呼吸・体温・血圧等）の管理を容易にするほか、航空機1機につき最大3人の重症患者を送送することができ、離島等の遠隔地から高次医療機関へ迅速に患者を搬送することが可能となる。この器材は東日本大震災において使用された実績があり、平時・有事問わず救命率を向上させるために重要な器材である。今後は本訓練での教訓事項を生かし「全ては救命率の向上のために」を合言葉に航空機患者搭載要領の練度向上に努めていく。

## 混成団 前期教育の集大成 5年ぶり東富士で総合訓練



猛暑の中の徒歩行進訓練



敵陣地に対する攻撃

第117教育大隊は、6月8日から15日までの間、第22期一般陸曹候補生課程（前期）の総合訓練を約5年ぶりに東富士演習場において実施した。本訓練は前期教育の集大成として訓練を通じて新隊員に達成感や自信を付与することを目的として行われた。訓練期間中は猛暑の中、一般陸曹候補生として必要な野外行動能力を向上させるため、4個の共通教育中隊の新隊員が約2日間ずつ設定された訓練期間で、25キロ行進、夜間訓練、戦闘訓練、小銃用掩体の構築及び宿営を実施した。

対敵行動をとりつつ集結地へ向け完了した25キロ行進、夜間における敵情視察、敵陣地に対する攻撃、応急防御のための小銃用掩体構築、集結地における宿営、特に25キロ行進においては、30度を越える猛暑の中、くじけることなく完歩したことは大きな自信に繋がった。この一連の状況下において、総合訓練を乗り切った新隊員が同期と励まし合いながら全力で訓練に臨む姿は、新隊員前期教育の集大成にふさわしく、入隊時から著しくたくましくなった彼らの成長を実感できた。

### 東京地本

# 2万6千人が来場 みなと祭で広報活動

自衛隊東京地方協力本部は5月18日・19日の両日、江東区に所在する東京国際クルーズターミナルにおいて開催された「第75回東京みなと祭」に参加し、護衛艦「おおよど」の一般公開と連携して広報ブースを出展した。

本イベントは東京みなと祭協会の主催で、東京港が国際貿易港として



大盛況となった広報ブース

開港したことを記念して行われているイベントであり、2日間で約2万6千人が訪れた。

「おおよど」の一般公開には両日とも長蛇の列ができ、約8千人が乗艦するなど大人気で、来場者は普段見ることができない甲板の様子や、乗員による「らっば」の吹奏などを見て大いに楽しんでいました。



トウチ君との記念撮影

したり、迷彩服・制服を試着した子供たちは、東京地本のマスコットキャラクター「トウチ君」と記念写真を撮る等、イベント開始から終了まで盛りだくさんで楽しんでいました。

東京地本は「おおよど」が公開されている岸壁に広報ブースを出展し、カラポン抽選会と迷彩服・制服の試着コーナーを実施した。カラポン抽選券を手にした家族連れなどは、抽選結果に一喜一憂

### 静岡地本

# 中学校で防災教育 防災意識の高揚図る

自衛隊静岡地方協力本部三島募集案内所は5月1日から22日にかけて、三島市立北上中学校3年生、三島市立南中学校1年生、三島北中学校2年生に対して、「いのちを考



毛布を使った応急担架の教育

える日」の一環として防災教育を行った。

本教育は中学生が災害時にも適切に行動できるように、また防災意識を高められるように令和3年から希望する中学校に対して静岡地本が実施しているものである。

当日は「災害における自衛隊の活動」発生時に自分の命を守る「地域の防災。周りの力になる」「避難生活を送る」「避難所で中学生にできること」の5つのテーマを軸に教育を行った。

災害時に重要な「自衛隊の活動」について伝えるとともに、もし事態の当事者になってしまった場合に役立つ知識として、2人で手を繋いで人を運ぶ徒手搬送、毛布を使った応急担架の作り方、はさみを使わないナイロン紐の切り方を体験した。生徒たちは真剣な表情で広報官の話に耳を傾け、「自衛隊の大切さを知った」「地域の防災訓練へ積極的に参加したい」といった感想が寄せられた。

三島所は、今後も担当

特にカラポン抽選会で1等賞当選者しか参加できない「おおよど」の特選別艦艇ツアーは大変好評で、参加者からは「非日常感溢れる船内を見学できて貴重な体験になった」「実際に働く隊員の姿がとても格好良かった」といった声が聞かれた。

東京地本は今後も自衛隊への理解を深めるべく、魅力ある広報活動を実施していく。

### 千葉地本

# 募集対象者を引率・案内 よすかYYのりものフェスタ

自衛隊千葉地方協力本部は6月8日、横須賀市内各地で開催された「よすかYYのりものフェスタ2024」へ募集対象者4人を引率・案内した。

本イベントでは海上自衛隊横須賀音楽隊パレードや各種装備品展示の他に、最新鋭のステルス護衛艦「もがみ」や護衛艦「てるづき」が一般公開された。



特別機動船の体験乗船

特別機動船の体験乗船においては、水しぶきをあげながら颯爽と横須賀基地港内を航行し、海から迫力ある護衛艦等を見ることができた。

また昨年度、同イベントに参加していた新隊員と偶然に再会し、たくましく成長した姿に喜びを感じた。当該隊員は今年4月に横須賀教育隊へ入隊した隊員であり、「入隊して本当に良かった。早く部隊で勤務したい」と心強く話してくれ、地域住民等との懸け橋を担う地方協力本部の広報業務の素晴らしさと重要性も感じることができた。

参加者からは「YYのりものフェスタに参加して海上自衛隊に興味を持った。他の自衛隊のことも知りたい」と嬉しい反応があった。

### 栃木地本

# 職業体験を担当して

大田原地域事務所 2等陸曹 佐藤 優真



栃木地方協力本部大田原地域事務所の広報官、佐藤2曹は6月11日から13日までの間、宇都宮駐屯地及び北宇都宮駐屯地の支援を受け、3月着任以来初めて中学校のマイチャレ

（職業体験）を担当した。同支援を振り返り感想を述べてくれたので紹介する。

職業体験に参加する栃木県立矢板東高等学校附属中学校生徒4人に対して5月21日に事前説明を行ったが全員がはつらつとした様子で「楽しみで仕方ない」と話してくれ、説明を終始笑顔で興味深そうに聞いてくれた。

各実施場所への送迎の車内では、私からの学校生活に対する質問に対して楽しそうに答え、片道1時間超の移動時間をとても短く感じさせてくれた。

駐屯地でのさまざまな課目を体験した後の質疑応答では「自衛隊勤務で一番成長できたことは？」などと積極的に質問し、自衛隊に対してさらに興味を湧かせていた。

日毎に感想を聞いてみると「自衛隊に対する興味がいよいよ芽生えた」「自衛官はとても親切で自衛隊に対する敬意が伝わってきた」「自衛隊の活動が想像以上に面白かった」「自衛隊の活動が想像以上に面白かった」など話していた。

最終日の帰りの車内では「社会で活躍するために今からできることはありますか？」「チームワークを強くする秘訣はありますか？」と質問され、中学校2年生が職業体験を通じて将来のことを考えてくれているということを実感でき非常に嬉しく感じた。また翌年以降も同校からの学生の参加があれば嬉しく思う。

大田原地域事務所は今後も、将来を担う若者の活動に積極的に参加することで、自衛隊の魅力を紹介していく。

### 神奈川地本

# 地域社会との交流 いのちの授業で講話

自衛隊神奈川地方協力本部厚木募集案内所は5月22日、大和市立桜丘小学校の総合的な学習の時間に協力し、6年生87人に「いのちの授業」の講話を実施した。

所長の明神3佐が講師となり「なりたいたい自分になるため、今できること、頑張りたいことを見つけよう」「昭和と今」をテーマに、講話の間には、現代の便利さを知ってもらう「昭和クイズ」を実施して大いに盛り上げた。

所長と広報官は、講話終了後、教室に移動して児童たちとともに懐かしい給食を味わい、懇談や腕相撲などで交流を深めた後、すっかり打ち解けた「仲間」となった児童たちとの別れに寂しさを感じながら桜丘小学校を後にした。

厚木募集案内所は今後も、地域社会との交流を深めることともに、自衛隊への理解促進に努めていく。



所長による講話の様子

# 最先任 上級曹長

## 「上善如水」 第1施設群 山田 隆 准陸尉



令和6年3月18日付で第1施設団兼て古河駐屯地最先任上級曹長に上番した山田准尉です。第1施設団は東部方面隊の

施設力の骨幹部隊として日々訓練・業務等を行っています。最先任上級曹長に上番するにあたり「上善如

水」を座右の銘に掲げました。私の出身地、新潟県のお酒の銘柄にも使われている言葉でご存じの方もいると思います。「上

善は水の如し」これは中国古典「老子」の中の一文中で「理想的な生き方をすれば水は上流に流れていく性質をたとえとしています。水には学ぶべき三つ

の性質があります。一つ目は、水は極めて柔軟であり、器の形に合わせて自在に形を変えることができます。これは、所属する組織や時代、状況に応じて、柔軟に自分の在り方を変えなさいということ。二つ目に、水は低いところへ流れていきます。これは、謙虚であること、自分の能力や地位を誇示することなく、自然体でいること。三つ目に、水はものすごく目に見えないほど透明で、自然体でいること。三つ目に、水はものすごく目に見えないほど透明で、自然体でいること。三つ目に、水はものすごく目に見えないほど透明で、自然体でいること。

# 「精強」 第1施設大隊 富山 夕奈 1等陸士



今月のフェアレディーは、千葉県印西市出身の富山1等陸士です。心身ともに強い女性を目指して令和5年度に入隊し、現在は朝霞駐屯地に所在する第1施設大隊第2中隊で日々さまざまな訓練に励んでいます。

Q1・普段行っている業務は？  
攻撃・防衛の訓練に参加し陣地を構築したり、訓練等で使用した資器材の整備をしています。

Q2・思い出深い訓練は？  
中隊に配属されて初めて参加した中隊訓練検閲です。4・5メートルのライナープレートで指揮所用軽掩蓋掩壕を構築しました。検閲に向けて事前にも何度も練習を重ねて臨みましたが本番は経験したことのない雨風の中、寒さや睡魔と戦いながらの作業でした。

Q3・今後の自衛隊人生は？  
悪天候で肉体的・精神的にもつらい状況でしたが、任務を完遂しなければという使命感、部隊の強い団結で検閲を乗り越えることができました。中隊検閲を乗り越え心身ともに精強になれたと感じています。

Q4・最後に一言  
何でも全力で取り組んで、辛い時こそ笑顔でいるように心掛けて日々自身を強化していきたいです。

Q5・プライベートで何をしていますか？  
格闘指導官です。空手の経験もあったので格闘に興味を持ちました。また新隊員後期教育の班長が格闘指導官で、その人を尊敬するようになり、その人のようになりたいと思っただけです。

Q6・最後に一言  
格闘指導官に必ずなりたいです。そのためたわまぬ努力を続け、屈しない強い精神で、東部方面後方支援隊で1番輝く格闘指導官になります。

「精強」の文字が刻まれた石碑の前で笑顔の夕奈さん。中隊訓練検閲で活躍した姿が印象的だ。

今月のフェアレディーは、千葉県印西市出身の富山1等陸士です。心身ともに強い女性を目指して令和5年度に入隊し、現在は朝霞駐屯地に所在する第1施設大隊第2中隊で日々さまざまな訓練に励んでいます。

# 東方男児 「夢の先の情熱」 富士教育直接支援大隊 吉成 輝 3等陸曹



今月の東方男児は群馬県中之条町出身の27歳、東部方面後方支援隊富士教育直接支援大隊で管理陸曹として勤務している吉成3曹です。

Q1・自衛隊に入隊したきっかけは？  
小学生の時に相馬原駐屯地の駐屯地記念行事を見に行き、その時の訓練展示に完全に心を奪われました。また自衛隊の方がとても優しく接してくれて、こんな風に強く優しい人になりたいと思いい隊を決めました。

Q2・普段行っている業務とその業務の魅力は？  
大隊本部で管理陸曹を担当しています。係業務は大変ですが、どのようにしたら部隊として効果的かつ効果的な業務を進められるかを考えるのが醍醐味です。自分自身のスキルアップが図れることです。

Q3・最も思い出深い訓練・支援は何ですか？  
令和3年度東ティモール能力構築支援です。支援の概要、現地の整備環境等、不明確なことが多い中で準備を万全にしましたが、その準備が意味を成さないほど聞いていた話とは違い劣悪な環境でした。そんな中でも行く前から勉強し、現地でも毎日勉強していた現地のティトゥン語とポティランゲージを使いながらどうしたら伝わるのかを日々考えながら教育した経験は、思い出深いものになりました。

Q4・今後の自衛隊人生でチャレンジしたいことはありますか？  
格闘指導官です。空手の経験もあったので格闘に興味を持ちました。また新隊員後期教育の班長が格闘指導官で、その人を尊敬するようになり、その人のようになりたいと思っただけです。

Q5・プライベートで何をしていますか？  
格闘指導官です。空手の経験もあったので格闘に興味を持ちました。また新隊員後期教育の班長が格闘指導官で、その人を尊敬するようになり、その人のようになりたいと思っただけです。

今月の東方男児は群馬県中之条町出身の27歳、東部方面後方支援隊富士教育直接支援大隊で管理陸曹として勤務している吉成3曹です。

# 「支え合い」 陸上自衛隊関東補給処 調達会計部 防衛事務官 渡邊 碧渚

私は現在、関東補給処調達会計部に所属しております。夫も同じく事務官で、茨城地方協力本部で勤務しております。事務官は約2〜3年に1度、転属があります。私の経歴は補給統制本部美唄駐屯地業務隊、関東補給処となっており、夫は関東補給処、真駒内駐屯地業務隊、茨城地方協

渡邊碧渚さんは、夫も同じく事務官で、茨城地方協力本部で勤務しております。

# 編集後記

皆さんは「おもいやり」と聞いてどのような漢字を思い浮かべますか？  
多くの方が「思いやり」と変換されたのではないのでしょうか。あまり馴染みがないと思いますが、辞書で調べてみると「思い遣り」と出てくることをご存じでしたでしょうか。また言葉の意味としても「その人の身になって考えること。察して気遣うこと。同情」とあります。

皆さんは「おもいやり」と聞いてどのような漢字を思い浮かべますか？

# 「支え合い」

私達は令和6年5月に入籍しました。タイムリが合えば早い時期から同棲をしようと思っていましたが、転属や勤務地、業務のこともあり、同棲を始めることができなかったのはこちらへ転属して1年前でした。お互いになんとか転属する話が出ていたのですが、事務官である以上、今同棲を始めると1年後にはまた引越してお金振り返った時に離れていってしまうのではないかと、それがいい思い出に傍になるのか分からなかった。でも今思えば、お互いに支え合っていることに感謝しています。

私達は令和6年5月に入籍しました。タイムリが合えば早い時期から同棲をしようと思っていましたが、転属や勤務地、業務のこともあり、同棲を始めることができなかったのはこちらへ転属して1年前でした。

# 「支え合い」

格闘指導官に必ずなりたいです。そのためたわまぬ努力を続け、屈しない強い精神で、東部方面後方支援隊で1番輝く格闘指導官になります。

# 「支え合い」

格闘指導官に必ずなりたいです。そのためたわまぬ努力を続け、屈しない強い精神で、東部方面後方支援隊で1番輝く格闘指導官になります。

格闘指導官に必ずなりたいです。そのためたわまぬ努力を続け、屈しない強い精神で、東部方面後方支援隊で1番輝く格闘指導官になります。